

資料4：評価ガイドライン構成（案）

ガイドラインの構成	主な項目	内容／ポイント
<p>はじめに</p> <p>1. イントロダクション</p>	<p>1-1 ODA評価の最近の動き</p> <p>1-2 「評価」の定義</p> <p>1-3 JICAの事業評価の目的</p> <p>1-4 JICA事業サイクルにおける評価の位置付け</p> <p>1-5 評価調査を生かすために (evaluation tip)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ガイドラインの目的</li> <li>■ ガイドラインの構成</li> <li>■ 外務省ODA評価研究会の最近の動き、行政評価の動き、それに伴うJICAの取り組み強化の動き、実施方針などの情報</li> <li>■ 一般的な「評価」の定義を記述する</li> <li>■ 評価の目的を、JICAの事業用語を使って記述する             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務を改善する</li> <li>・ 対象案件を改善する</li> <li>・ 資金提供者である国民の理解と支持を得る、等</li> </ul> </li> <li>■ 事業サイクルにおいて評価がどのような機能を果たすべきものかを具体的に記述する（評価の種類を明示）             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前評価→中間評価→終了時評価→事後評価</li> <li>・ プログラム評価/国別評価→重点課題/国別事業実施計画策定</li> <li>・ プロジェクト評価→事前評価、プロ・ドク作成</li> <li>・ 特定テーマ評価→すべての関連案件の検討</li> <li>・ 総合評価の位置付け</li> <li>・ モニタリングと評価の関連、等</li> </ul> </li> <li>■ 評価を行う上での留意点、評価倫理などを記述する             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価情報の利用者は誰か、誰のための評価か、評価の目的は何か等の再確認が重要であること</li> <li>・ 利用者が最初から関わる事が重要であること</li> <li>・ 阻害・貢献要因の分析が評価調査の主要な作業であること、等</li> </ul> </li> </ul>

ガイドラインの構成	主な項目	内容／ポイント
2. JICA 評価の実施体制	2-1 評価の実施主体  2-2 評価結果の利用者  2-3 評価監理室の役割  2-4 評価検討委員会・評価検討作業部会の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各評価調査ごとに実施主体と責任範囲を明確にする（内部評価／外部評価、混合チーム、それぞれの pro/con)</li> <li>■ 評価目的ごとに想定される利用者を説明する（相手国実施機関も含む）</li> <li>■ 事後評価／総合評価の実施、評価方法の普及、評価研修の実施、評価結果の蓄積と情報提供、二次加工の役割を説明する</li> <li>■ 評価結果のフィードバックを組織的に意思決定する場としての活用と権限を明確にする</li> </ul>
3. 評価調査のデザイン	3-1 評価デザインの検討  <u>主なステップ</u> 1) 評価の目的と評価結果の利用者の確認 2) 評価アプローチの選択 3) 評価調査団員分野の決定 4) 評価対象事業内容の整理・確認（PDM 及び他のモデル等） 5) 主な評価項目の検討 (例) 評価五項目の視点、特定テーマ、実施のプロセスなど 6) 調査項目と情報・データ収集方法の検討 (例) 文献、インタビュー、アンケート、グループ・ディスカッション、観察、PRA、費用対効果分析、定性的／定量的データ等	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 評価をデザインするステップを提示し、各ステップごとに検討する項目、留意点を説明する（評価方法論の中心一省略）</li> <li>■ プログラム評価、プロジェクト評価、その他の案件評価（研修・派遣・協力隊等）のすべての評価に共通するステップであり、評価の目的ごとに 2)～4) における対応が異なる。ステップごとこの違いは囲み事例で入れ込むことも一案。</li> <li>■ 2) の評価アプローチの選択でカバーする事項は、PDM のロジック・モデルを適用しないケース、評価結果の価値判断をその方法で行うのか（例：記述形式、事前／時後・with/without の比較、指標目標値の比較など）等を含む。</li> </ul>

ガイドラインの構成	主な項目	内容/ポイント
	(前ページの評価デザインのスナップ続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 5) の評価項目は、五項目の視点を切り口として調査項目を考える際の組み立て方、他の評価の視点の重要性などを説明する。評価五項目を評価するのではなく、それらの切り口から得られた評価情報をどのように「読み取る」のかが評価のポイントであることをわかりやすく解説する。</li> <li>■ 6) は、サンプリングの方法なども記述する。情報収集方法は様々な手法があるので、ガイドラインには代表的な手法の特徴、pro/con を入れ、より詳細な手法を知りたい場合の参考文献を付す</li> <li>■ 評価デザインの検討結果を元に作成する評価グリッドの説明と事例を入れる。事前評価も含めた評価グリッドのあり方、調査項目を立てる際の留意点を解説する。</li> <li>■ 現地調査に向けての事前準備事項を記述する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 案件関連資料（モニタリング情報を含む）の入手</li> <li>・ 国内関係者へのインタビューの実施</li> <li>・ 現地アポイントの取りつけ、調査票の事前配布</li> <li>・ 評価調査における在外事務所の役割</li> <li>・ ローカル・コンサルタントの活用方法、等</li> </ul> </li> </ul>
	3-2 評価グリッドの作成	
	3-3 現地調査の事前準備	

ガイドラインの構成	主な項目	内容
4. 評価調査の実施	<p>4-1 現地側との評価目的の共有</p> <p>4-2 情報・データの収集</p> <p>4-3 収集情報の分析</p> <p><u>主なステップ</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 評価項目ごとの情報・データの整理</li> <li>2) 実施前/コントロールグループ/指標 目標値による比較</li> <li>3) 達成度が十分であるかどうかの判断</li> <li>4) 阻害・貢献要因の分析</li> </ol> <p>4-4 教訓・提言の検討</p> <p>4-5 評価報告書の作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 相手国側関係者と評価の目的、評価方法を確認し、「評価が関係者全員の役に立つものである」という認識をもってもらうことの重要性和そのための方法を十分に説明する</li> <li>■ 収集方法ごとのサンプリング、対象母集団の再確認を行う。</li> <li>■ 評価デザインに基づき、情報・データの収集をする</li> <li>■ 情報の分析にあたり主なステップごとに留意すべき点を記述する <ul style="list-style-type: none"> <li>(例)</li> <li>・ クロス・チェックの必要性</li> <li>・ 不完全情報の取扱</li> <li>・ 評価の目的に合った情報の選択</li> <li>・ 定性的情報の読み方、等</li> </ul> </li> <li>■ 代表的な情報分析方法を紹介する(？)</li> <li>■ 情報分析結果に基づき教訓・提言を策定する上での留意点(ルール)を説明する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提言先を明確にすること</li> <li>・ 曖昧かつ抽象的な表現は不可とすること</li> <li>・ 問題解決のための代替案を検討すること</li> <li>・ 優先順位をつけること</li> <li>・ 最終案を提示する前にそれらを活用する側とともに再検討すること、等</li> </ul> </li> <li>■ 報告書に含まれるべき基本的項目を提示する</li> <li>■ 作成上の留意点を記述する</li> </ul>

ガイドラインの構成	主な項目	内容
5. 評価結果の活用一効 果的なフィードバック  附録： ■ 評価関連用語集 ■ 評価関連文献リスト ■ 最近の J I C A 評価調 査一覧	5-1 評価結果の活用  5-2 評価結果の提供方法 1) 報告会 / フィードバックセミナー 2) 評価報告書 / P D F 3) 年度別事業評価報告書 4) データベース 5) J I C A ホームページ 6) 国別情報システム  5-3 教訓・提言の具現化	■ いくつかの活用目的を説明する（アカウンタピリティー含む）  ■ 各方法へのアクセスの仕方、含まれる内容等を記述する  ■ 国別事業実施計画策定、事前評価、案件検討段階へのフィードバックの流れを説明する ■ 評価監理室の二次加工、総合評価、評価検討部会・委員会の役割などを記述し、具現化への取り組みを説明する